

講義コード	515101902	
講義名	図画工作II CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	後期	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	4 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	花田 千絵	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

授業の概要

造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにするとともに実践力を身につける。

授業の方法

①プレゼンテーションの方法

配布印刷物と板書を活用し、場合によっては実演する。

②授業形態

実技

③アクティブラーニング

体験学習

④課題に対するフィードバックの方法

確認テストの解説を行う。

授業計画

第1回 鑑賞まとめ

第2回 紙とストローの工作、5歳児向けの製作（切る・貼る）と製作手順の図示

第3回 基礎技法（7）ステンシル、生活素材について（魚釣りの材料説明）

第4回 魚釣りゲームの製作と遊び方の検討

第5回 魚釣りゲームの実践、秋の造形表現テーマ

第6回 紙のサンプル帳づくり（1）

第7回 基礎技法（8）紙染め、マーブリング

第8回 紙のサンプル帳づくり（2）

第9回 基礎技法（9）デカルコマニー、糸引き絵、自然素材による造形

第10回 紙のサンプル帳づくり（3）

第11回 冬の造形表現テーマ、基礎技法（10）スクラッチ

第12回 1枚の紙から（凧の製作）

第13回 生活素材を使った造形遊び（紙コップ）

第14回 生活素材の研究

第15回 生活素材の研究発表

授業の到達目標及びテーマ

本授業の到達目標は、素材や用具の特徴を学び、効果的な表現を意図して操作できること、造形表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の造形指導に応用できることである。

本学の到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

本科目は、幼児教育科のディプロマポリシー「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「5.音楽・図画工作・体育の実技と表現を身につけ、乳幼児に指導できる。」を達成するための科目である。

授業計画表

授業時間外の学修

夏季休業中に近隣の美術館において美術鑑賞をすることで、美術や表現に触れる経験をする。
(必要な時間は1時間程度)

事前に連絡する材料・道具を準備して授業に臨む。
素材収集などの授業準備に20分かかると想定される。
授業内で制作した作品課題はファイルに整理する。
学習内容を復習する時間に25分かかると想定される。

実務経験の有無

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
	◎	◎	

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている
表現力	授業内容を100%理解しており、臨機応変な対応が出来、保育者に必要な表現力がより豊かに身につけていることが認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、保育者に必要な表現力が身につけていることが認められる	授業内容をほぼ70%程度理解しており、保育者に必要な表現力がやや身につけていることが認められる	授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている
実技の際の行動・態度	自発的に実技に取り組むとともに、リーダーシップを発揮しながら活動できている	説明マニュアルを見ながら実技に取り組むことができる	説明マニュアルを見ながら実技に取り組んでいるが時折ミスがあるので、支援をしている	説明マニュアルを見ながらも実技に正しく取り組めないことが多いので、寄り添った支援をしている
実習への	授業内容を100%理解しており、実習に関して実情に応じた臨機応変な対応	授業内容をほぼ95%程度理解しており、実習に関	授業内容をほぼ70%程度理解しており、	授業内容の理解は65%以下と判断で

準備 状況	が出来、十分に準備が整 っていることが認められ る	する準備が整って いることが認めら れる	実習に関する準備が やや整っていること が認められる	きるため、助言・新 たな資料提供等の支 援を行っている
----------	---------------------------------	----------------------------	----------------------------------	-----------------------------------

成績評価法（表形式）

	評価 基準	備考
定期試験		
小テスト 等	50%	学習内容の理解度を確認する課題を評価する
成果発表		
授業への 貢献度		
レポート		
その他	50%	基礎技法について、毎回の授業で製作する作品及び学習内容や気づきを資料 に記入しファイルにまとめたものを評価する

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果につ いて	課題（レポート等）につ いて	模擬授業、プレゼン、発言等につ いて
掲示板等に正解と講評を掲載す る その都度解説、講評する	その都度解説、講評する	授業の中で解説、講評する その都度解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

クリッカー、アンケート、小テスト等 チャット 掲示板の活用

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動 におけるAL	授業時間外にお けるAL
発問の吟味・精選 グループワークのディスカッションやディベート (議論の場と時間) プレゼンテーション コメントシートの活用 調べ学習・調査の活用	実験観察・実習	

教科書

樋口一成（編）「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材」萌文書林
SDGsとの関連
4. 質の高い教育をみんなに
特記事項等
①実務経験のある教員 なし
②科目のナンバリング STE1203
③オンライン授業の実施方法 Teamsによる教材提供、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階 231研究室 出講日（授業のある曜日）月・火・水
電話番号
028-667-7111（代）
授業用E-mail
hanada@sakushin-u.ac.jp
成績評価法
①試験 0% ②レポート 0% ③平常点 50% 学習内容の理解度を確認する小テストを評価する。 ④基礎技法ファイル 50% 基礎技法について、毎回の授業で製作する作品及び学習内容や気付きを資料に記入しファイルにまとめたものを評価する。